

令和6年度 幼稚園評価・自己評価報告書

当園では、職員による令和6年度の幼稚園評価・自己評価を実施いたしました。

職員一人ひとりが自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直す良い機会となりました。また、それぞれの評価結果について皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受け止め、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

- ・ 様々な実体験（あそび）を通し、一人ひとりの感性を磨く。
- ・ 一人ひとりの個性を尊重しながら可能性を引き出し、生きる力の基礎を培う。
- ・ 園児の健やかな成長が図れるよう、その心身の発達を助長する。
- ・ 必要に応じ、保護者に対して子育てに関する悩み、相談に対応できる体制を構築する。

2. 評価

評価の基準

※以下の基準で評価を行いました。

A...十分理解出来ている（十分出来ている） B...理解している（出来ている） C...普通 D...努力が必要

	評価項目	結果
教育・ 保育の 基本	①教育・保育理念及び目標と教育・保育要領の関係を理解し、教育課程、教育・保育の全体的な計画、及び子育ての支援計画に基づいて、指導計画を立てている。	A・B同数
	②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を改良している。	B
	③幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮し、指導計画をたて、指導している。	B
	④認定こども園は、生きる力と人格形成の基礎を育成する重要な役割があり、子どもの最善の利益を考慮しつつその生活を保障し、保護者と共に園児を心身ともに健やかに育成するものであることを踏まえ保育を行っている。	A
	⑤一人ひとりの子どもの発達状況を踏まえ、保育目標、保育の実際について話し合うための会議を定期的、又は必要に応じて行っている。	A
保育環境・ 保育内容	①幼児期の教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることを理解し、保育を行っている。	A
	②幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立に向かうものであることを考慮して、園児一人ひとりが周囲との生活の中で安心感と信頼感をもって色々な活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるよう環境を整え、保育をしている。	A
	③園児の心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人ひとりの気持ちを受け止め、援助している。	A
	④子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	B
	⑤子どもが自発的に活動出来る環境が整備されている。	B
	⑥身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	B・C同数
	⑦様々な表現活動が自由に体験出来るように保育環境が配置されている。	B
	⑧遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	A
	⑨子どもの人権に十分配慮するとともに文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	A
	⑩性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	B

	評価項目	結果
健康管理	①保健計画を作成する際は、全ての職員が、そのねらいや内容を踏まえ、園児一人ひとりの健康の保持及び増進に努めている。	B
	②感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には必要に応じて園医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに保護や全ての職員に連絡し、予防等について協力を求めている。	A
	③アレルギー疾病を有する園児に関しては、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき、適切な対応を行うとともに食物アレルギーに関して関係機関と連携して、自園の体制構築など、安全な環境の整備を行っている。	A
	④登園時や保育中の子どもの健康管理は、一人ひとりの健康状態に応じて行っている。	A
	⑤虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、その子どもの保護者の対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	A
安全衛生	①バスや保育に於ける事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
	②事故や災害に適切に対応出来るマニュアルがあり、全職員に周知されている。	A
	③施設内外の危険箇所の点検を行い、不審者の侵入防止のためのシステム訓練など不測の事態に備え必要な対応を行っている。	A
	④給食室の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A
食事・食育	①日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの状況を保護者に知らせている。	A
	②食事を楽しむ工夫をしている。	B
	③認定こども園における食育は、健康な生活の基本としての食を営む力の育成に向け、その基礎を培うことを目標とし園児が生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う園児に成長していくことを期待するものであることを理解し、指導している。	B
子育て支援	①日常の様々な機会を活用し、園児の日々の様子の伝達や収集、教育及び保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めている。	A・B同数
	②子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A
	③子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	C
地域連携	①近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼したりするなどの配慮をしている。	C
	②小中高生などの保育体験、実習生、ボランティアなどの受け入れの意義、方針が全職員に理解されている。	B・C同数
	③地域の方との交流の場を設けている。	C
小学校との接続	①認定こども園においては、その教育、保育が、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにしている。	A・B同数
	②認定こども園の教育及び保育において育まれた資質、能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との交流の機会などを設け、円滑な接続を図るよう努めている。	B
	③評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的、計画的な取り組みを推進し、小学校にその内容が適切に引き継がれるようにしている。	A
組織運営	①園の方針の下に園務分業に基づき保育教諭が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、全体的な計画や指導の改善を行っている。	A
	②保育の内容について、自己評価を行っている。	A
	③職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A
情報	①情報提供にあたって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	B
	②保育の実施にあたり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	A
	③守秘義務の順守を周知している。	A

3 総合的な今年度の評価

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> • 年長は全体的に行事が多く、忙しい月もあった。そのような中でも、子ども達が楽しく過ごしていけるよう工夫して保育を進めた。(5歳児 年長) • 担任2人が昨年度と同じだったため、子どもたちについて情報を共有しながら、個々に合った保育を行うことができた。 • 新型コロナウイルスによって、今まで出来なかった発表会の鍵盤ハーモニカ合奏が復活したが、1学期から少しずつ取り組んできたことで、子どもたちも無理なく、楽器に触れる楽しさを経験することができた。(4歳児 年中) • 日頃から気になっていること、保育において大切にしていることを職員間で共有し、助け合って、園児の健やかな成長が図れるようにした。 • 子どもの発達に沿った活動ができたと思う。(3歳児 年少) • 2歳児2クラスに分かれての保育だったが、経験や体験に差が出ないように2クラスで会議を行い、活動を共に行った。そうすることで、2歳児保育者全員がお互いのクラスの園児と関わるが多く、保育者全員で成長を見守り、時には配慮を行うことができた。 • 1クラスでは難しい活動も、2クラス合同で行うことで積極的に取り組むことができた。(2歳児 れんげ) • 夏からトイレトレーニングを始めたので、3学期には全員トイレで排泄できるようになった。 • “身の回りのことに関心をもって自分でしてみようとする”と、いうことも大きな目標にしていたが、中には消極的な子ども居るので意欲の高まる言葉掛けをしたり、周りの子に目を向けるよう促すことで、自分でしたいという気持ちを高めることができたと思う。(1歳児 ゆり)

4. 課題と改善点

<ul style="list-style-type: none"> • 行事の多い月は準備や練習が主になりがちなので、計画性をもって早めに取り組んだり、行事の分散化を図ったりする必要がある。(5歳児 年長) • 年長組進級に向けて、自発的に活動できる環境を整えてきたが、次年度も継続し、更に発展できるようにしていく。(4歳児 年中) • 子どもの可能性を引き出すために取り組んでいるという姿勢が、保護者に伝わるように、今後はれんらくアプリを活用し情報発信していく。(3歳児 年少) • 玩具や遊具の正しい使い方が未熟な為、子ども達のケガをおそれてしまい、自発的に活動出来る場面が少なかった。 • 大きな遊具の場合は、ケガが伴ってくる為難しいが、慣れてきた頃に保育室内の玩具は、自由に遊べるような環境に整えていく。(2歳児 れんげ) • 避難訓練の際、抱っこできる人数が限られているので、階段をすばやく避難するために、ゆり組に来てくれる職員を増やす。 • 園児が10名以上になると、排泄時に混雑したので、少し時間をずらしながらトイレへ誘導していくようにした。(1歳児 ゆり)
--